

2013年12月16日 西条市立西中学校の理科授業を開催しました。

12月16日、理科授業(1年生66名)を実施しました。
5年連続の実施となる今回も、西中学校の先生方と事前検討を重ねながら開催の準備を進めていきました。



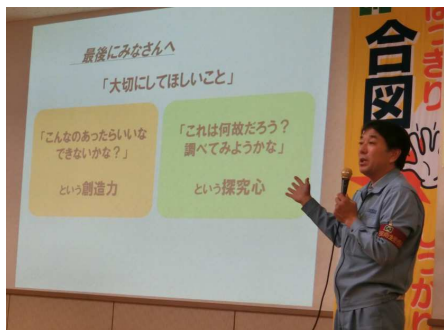
最初のテーマは「モノの区別」です。普段は意識しないモノの特徴を意識することで様々な区別が可能になるという説明の後、例題として、4つの材質の違うコップ(ガラス、プラスチック、紙、金属)を使って「どんなところで使われているか?」また、「それはなぜなのか?」を考えてもらい、身の回りの物質はそれぞれの性質にふさわしい使い方がされているということを理解してもらいました。



続いては、生徒が楽しみにしている「プラスチックを調べよう」の実験です。5種類のプラスチック試験片を水に浮かべて「密度」を調べる実験と燃焼による「変化」を観察する2つの実験を行いました。「プラスチックはどれも同じでは?」と予想していた生徒は、5つの試験片それぞれに燃え方の特徴があったり、浮かぶと思った試験片が水に沈んだり「なぜ??」、「プラスチックは不思議だ…」といった様子でした。実験後には、観察できた事象(特徴)から試験片の樹脂名予測を行い、その解説とあわせて、プラスチックには多くの種類あり、それぞれに特徴があることを生徒達に説明しました。



次は「プラスチック製品のつくり方」と「工場見学」です。当社の主要製造方法の一つである射出成形を「チョコレートの作り方」に例えて説明し、イメージが掴めたところで、実際の「製品ができるまで」を工場見学で見てもらいました。工場見学では製造中の成型機を近くで見ながら、プラスチックの原料や製品サンプルにも触ってもらい普段は見ることのない製造現場をじっくりと見学してもらいました。



そして最後に、石平貴裕社長が四国積水で生産しているアシェラという合成木材を例に「適材適所」と「モノづくりを通じた環境貢献」を伝えました。また、近い将来、「プラスチック」に興味を抱いた西中学校の生徒が、四国積水に来て、世の中に貢献するモノづくりをしてくれることを願っていますとお礼のメッセージを伝えて一連の授業を締めくくりました。

四国積水では、この活動を地域の方々と協力し、今後も継続していきたいと考えています。